

581 Architects in the World 世界の建築家581人



企画・編集＝ギャラリー・間

監修＝三宅理一・村松伸・淵上正幸



1948年インド、ニューデリー生まれ。70年ロンドン、入込スクール卒業。70年2月シンガポール、デリーの設計事務所を勤める。設計事務所を開設する。80年2月デリー大学都市計画・建築学部で教職を執る。またニューデリーに新しい建築の学校「TVG住居研究学部」を設立し、大学の委員会の委員も務める。職能教育、技術、マネジメント・サーヴィスの普及を目的とした非営利組織の研究団体の設立会員となる。



Indian Institute of Health Management Research, Jaipur, 1991, P. A. B. Lall



Tata Energy Research Institute, Gurgaon, 1992, P. A. B. Lall

アショク B.ラルは、設計事務所を設計を行い、大学で研究や教育も活動的に行う建築家である。彼は作品を通じて構築されてきた形態や環境の特性の可能性への理解を深めている。

彼の作品の特徴は、素材から生まれるディテールと分層に厳格な関心を寄せているところにあり、多様な素材、伝統と現代の共生する秩序の感覚を叙情的に表現している。彼の建築の最も生き生きとした特質は、スケールを詳細に理解しているところである。建物を組み立てる要素が、ファサードを感性豊かに分層し、塊と空間、水平と垂直の帯の表現となり、これらの要素が伝統的な美意識を暗示



Tata Energy Research Institute, Gurgaon, 1992, P. A. B. Lall

する。ジャイプールの「健康管理研究所」では、既存の建物、空に開放された中庭、バーゴラで目録となる歩道などの伝統的な都市の類型学に基づいて、著く乾燥した気候に建つ研究所らしく、心地よい威厳のある形象が造り出された。彼は、感性を持続可能な建築や環境に向け、地域の資源や職人が築いたヴァキヤプラーを展開し、多くの局面で百エネルギーに配慮する。建物は、重量感のある石造りの壁から蒸発冷却システムまで、自然の素材と現代の要素の表現である。インドの伝統的なジャッパ(石の格子)はプレファブコンクリートだが、伝統的な構築の技と現代の技術が巧く調和

する。デリーの郊外の「タータ・エネルギー研究所」では、伝統的な構築の感性で現代の技術と素材を融けて百エネルギーを意図したデザインの原則を巧みに表現した。織物文化に根ざった出来栄人の工場やその他の研究所では、煉瓦の耐力壁と砕石・プラスターで重い量感を造り、空気や太陽や水と相互に影響し合う軽い要素の表面は、技術的な進歩と伝統的な造りの新たな関係の手段やを示している。彼の思想は、建物のプログラムの暗示を超越し、知的な空論を超えて時を超えた計り得ぬものを追求するところまで移行する。彼は、物質に魂を流そうと試みている。